

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和3年12月分）

【製造業】

○製造業は、10月の鉱工業生産指数は前月比6.3%と上昇。ヒアリングでは、半導体関連が引き続き堅調であるなどの声があった。一方で、部品不足による大手自動車メーカーの一部工場停止の影響を懸念する声が多くあった。また、原材料価格等の上昇で価格転嫁するとの声も多くあった。

【地場産業】

○地場産業は、10月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、パルプ・紙を除き上昇した。ヒアリングでは、消費の回復で業況が回復しているとの声があった。一方、コロナ前と比べると引き続き状況は良くないとの声も聞かれた。また、原材料価格等の上昇で価格転嫁を検討するとの声も多くあった。

【設備投資】

○設備投資は、10月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で64.0%増加した。金融機関からのヒアリングでは、国等の補助金を活用して設備投資をする動きが見られた。

【個人消費】

○個人消費は、11月の販売額は、家電大型専門店、コンビニ、百貨店・スーパー、ホームセンターのいずれも減少した。ヒアリングでは、12月はこれまでの反動などで売上や客数が増加したとの声も聞かれた。また、原材料価格等の高騰で、今後、消費者向けの商品価格が上昇すると見込んでいるとの声も聞かれた。

【観光】

○観光は、9月末をもって国の緊急事態宣言が解除され、10月15日から県民割引キャンペーンが開始されたものの、GoToトラベルの実施期間と重なる対前年同月やコロナの影響を受ける前の前々年同月と比べマイナスになるなど、厳しい状況が続いている。また、ヒアリングでは、県民割引キャンペーンの影響で週末の予約は増加しているが、平日の予約は少なく苦慮しているなどの声があった。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、11月の制度融資実績は、件数、金額ともに7ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、運送業において原油価格の上昇の影響が出始めており、今後、県の原油高対策資金の利用を検討する事業者が出てくるかもしれないとの声も聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、11月の有効求人倍率は1.53倍と3ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、製造業や建設業に加え、消費の回復などにより、宿泊業や飲食業においても人手不足になっているとの声も聞かれた。

【景気動向】

10月の景気動向指数（一致指数）は前月比で2.3ポイント上昇し、11月の中小企業の景況感は同比で9ポイント上昇した。